

# 高知県感染症発生動向調査(週報)

2011年第34週[8月22日～8月28日]

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター  
TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869  
http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/  
E-mail:kansen@ken4.pref.kochi.jp

## 県内情報

### ○ 患者情報総評

**警報発令疾患** : 手足口病

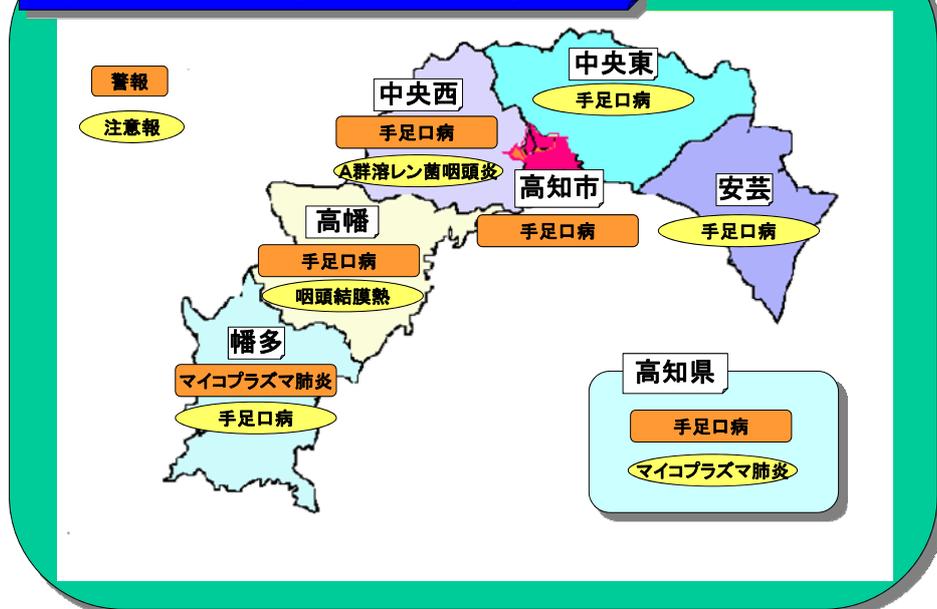
**注意報発令疾患** : マイコプラズマ肺炎

- ・ 日中はまだ日差しが厳しいが、朝晩はだいぶ涼しく感じられるようになった。
- ・ **手足口病** (高知市: 警報→警報, 高幡: 注意報→警報, 中央西: 警報→警報, 幡多: 警報→注意報, 安芸: 注意報→注意報, 中央東: 注意報→注意報) は高幡と安芸で増加し, その他の地域では減少した。総数は引き続き減少している。
- ・ **ヘルパンギーナ** は高幡と幡多を除く地域で減少し, 総数はさらに1/2に減少した。
- ・ **感染性胃腸炎** は例年通り低いレベルで推移しており, 落ち着いている。
- ・ **マイコプラズマ肺炎** (幡多: 注意報→警報) は引き続き注意報値を超している。搬入された検体からは *Mycoplasma pneumonia* が3件検出されている。

上位疾患構成図

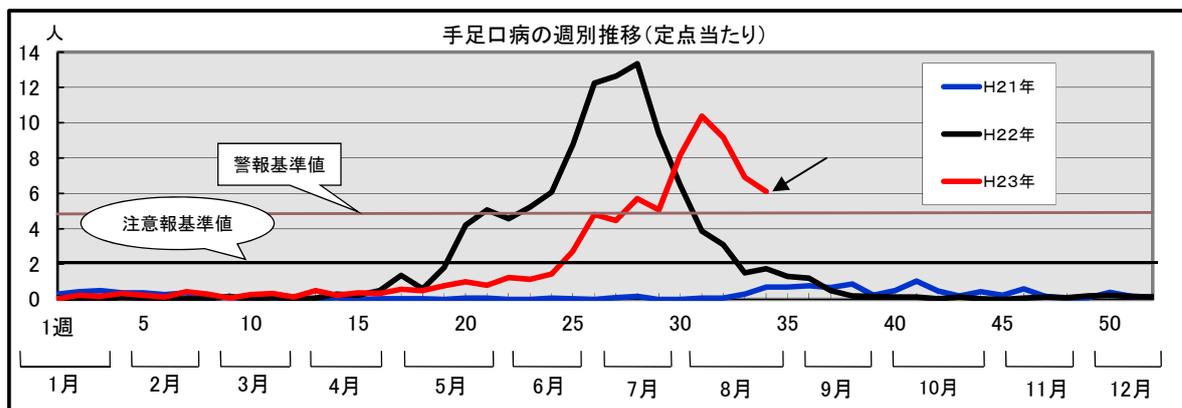


## 地域別感染症注意報・警報発生状況 第34報 (2011年8月22日～2011年8月28日)



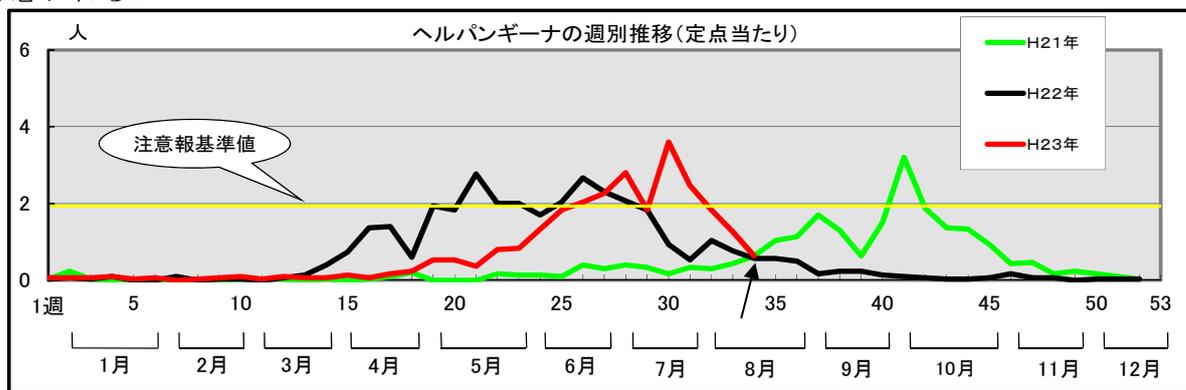
**手足口病: 今週 6.10 (注意報値: 2.00 警報値: 5.00)**

総数は引き続き減少し, ピーク時の6割に減少した。しかし, 依然として警報値を上回っており, 例年同時期と比較して高いレベルで推移している。地域毎にみても, 高幡と安芸で増加し, 高幡では再び警報値を超した。その他高知市と中央西でも警報値を超す報告が続いている。予防としては患者に近づかない, 手洗いの励行などである。患者あるいは回復者に対しても, 特に排便後の手洗いを徹底させることが重要である。



**ヘルパンギーナ：今週 0.63 （注意報値：2.00 警報値：4.00）**

総数は引き続き減少し、全ての地域で注意報値を下回った。今後も終息に向かって減少していくと思われる。



**検査情報**

受付週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況
34	百日咳	1ヵ月 女	高知市	<i>Bordetella pertussis</i>
34	マイコプラズマ肺炎	45歳 男	中央東	<i>Bordetella pertussis</i>
34	マイコプラズマ肺炎	7歳 女	高幡	<i>Bordetella pertussis</i>
34	マイコプラズマ肺炎	2歳 女	高幡	<i>Bordetella pertussis</i>
34	マイコプラズマ肺炎	1歳 女	高知市	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
34	マイコプラズマ肺炎	9歳 男	高知市	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
34	マイコプラズマ肺炎	6歳 男	高幡	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>

前週以前に搬入され検出された病原体

受付週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況	備考
26	咽頭結膜炎	2ヵ月 男	幡多	Echovirus 6	33週検出と同一人異検体
32	無菌性髄膜炎	10歳 男	高知市	Echovirus 6	
30	無菌性髄膜炎	5歳 女	高知市	Echovirus 6	33週検出と同一人異検体
30	手足口病	7歳 男	須崎	Coxsackievirus A16	33週訂正 (Cox.A6⇒Cox.A16)

○ 全数報告の感染症情報

2類感染症：結核 9例（10,70,80代女, 80代男）《幡多》（30代女）《中央東》  
 （50代男）《須崎》（20,40代女, 50代男）《高知市》（今年124例）  
 4類感染症：日本紅斑熱 2例（60代男）《高知市》（60代男）《中央東》（今年5例）

○ 定点からの地域ホット情報

幡多：

《さたけ小児科》：膿痂疹 2例（4歳男女） マイコプラズマ感染症 1例（7歳男）

高幡：

《もりはた小児科》：アデノウイルス感染による扁桃炎 2例（3,6歳）

中央西：

《石黒小児科》：ヘルペス性歯肉口内炎 1例（4歳女） 単純ヘルペス 1例（12歳女）

《くぼたこどもクリニック》：突発性発疹の1例（11ヵ月男）は県外から帰省

手足口病の1例（1歳女）は須崎市

《日高クリニック》：マイコプラズマ感染症 1例（3歳男）

**高知市：**

《けら小児科・アレルギー科》：マイコプラズマ肺炎 7例（3～7歳男女）

**中央東：**

《吉本小児科皮膚科》：マイコプラズマ肺炎 1例（8歳男）

《あけぼの小児クリニック》：アデノウイルス咽頭炎 2例（2,6歳男）

**全国情報第32週（8/1～8/7）（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）**

2類感染症：結核346例

3類感染症：コレラ1例、細菌性赤痢4例、腸管出血性大腸菌感染症200例（有症者131例、うちHUS 4例、うち死亡1例）、腸チフス1例、パラチフス1例

4類感染症：A型肝炎1例、つつが虫病2例、デング熱1例、マラリア3例、類鼻疽1例、レジオネラ症5例、レプトスピラ症1例

5類感染症：アメーバ赤痢13例、ウイルス性肝炎（B型）1例、急性脳炎2例、クロイツフェルト・ヤコブ病2例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、後天性免疫不全症候群8例（AIDS 3例、無症候5例）、梅毒7例、風しん4例、麻しん7例

報告遅れ：E型肝炎2例、日本紅斑熱3例、マラリア1例、急性脳炎1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例

◆腸管出血性大腸菌感染症（2011年8月17日現在）

2011年の腸管出血性大腸菌感染症報告数は、例年よりも早い第17週から増加し始めた。集団感染事例（食中毒を含む）が複数発生したため報告数が急増し、第19週163例、第20週167例と一時的にピークを形成した後、一旦減少した。第23～27週まで100例前後の報告が続き、第28週から再び増加して第30週240例、第31週306例と300例を超え、第32週は200例であった。

本年第32週までの累積報告数2,342例は、2000年以降の各年同週までの累積報告数と比較して2001年に次いで2番目に多い報告数である（2000年1,740例、2001年2,779例、2002年1,924例、2003年1,300例、2004年1,976例、2005年1,872例、2006年1,894例、2007年2,169例、2008年2,116例、2009年1,857例、2010年2,173例）。第1～32週の累積報告数2,342例についてみると、報告の多い都道府県は、食中毒による集団発生を反映して山形県（287例）、富山県（162例）が多く、次いで東京都（149例）、大阪府（117例）、千葉県（110例）、福岡県（84例）となっている。性別では男性1,078例、女性1,264例、年齢群別では0～9歳688例、10～19歳380例、20～29歳313例の順に多かった。

腸管出血性大腸菌感染症の重篤な合併症である溶血性尿毒症症候群（HUS）の発症は、第32週までに累計73例（男性24例、女性49例；有症状者におけるHUS発症率4.5%）報告されており、年齢群別では0～4歳13例（HUS発症率4.2%）、5～9歳12例（同5.5%）、10～14歳6例（同3.6%）、15～64歳33例（同4.5%）、65歳以上9例（同4.5%）であった。このうちの30例は富山県を中心とした同系列の焼肉店で発生した食中毒（0111 VT2、0157 VT1・VT2など）の患者であり、うち14例は脳症も発症していた。また、4例は山形県のだんご店に関連した食中毒（0157 VT1・VT2）患者である。残りの39例のうち、推定または確定された感染源・感染経路として肉の喫食が記載されていた者が13例あり、そのうち生肉を喫食していた者は4例（10～14歳2例、15～64歳1例、65歳以上1例）であった。死亡は9例（3歳1例、6歳1例、40代1例、60代1例、70代1例、80代4例）。

本年第30週以降これまでに認められている主な集団感染事例（食中毒を含む）は、第30週に岐阜県（保育所、026 VT1）、第30～32週に山形県（社会教育施設、OUT VT1）、第31～32週に岩手県（保育所、026 VT1・VT2）、第31～32週に栃木県（医療機関・福祉施設、0157VT1・VT2と0145 VT2）、第31～32週に石川県（保育所、0111 VT1）、第32週に千葉県（福祉施設、0157 VT1・VT2）などで発生し、そのうち山形県、栃木県、千葉県は食中毒であった。

腸管出血性大腸菌0145による感染者の年間報告数は、昨年（2010年）が66例とそれまでで最多であったが、本年は第32週までで114例と既に上回っており、0157、026に次いで3番目に多い0血清群となっている。なお、この他に0145と他の0血清群の複数菌種に感染した症例が7例報告されている。第32週には死亡が1例（VT2）報告された。集団発生は、第32週までで4件確認されており、そのうち長野県（0145 VT1, 0103 VT1, 0121 VT2）と栃木県（0145 VT2, 0157 VT1・VT2）の2件は食中毒で、いずれも複数菌種による感染が報告されている。

0145 VT2感染者の累積報告数は57例で、特に直近4週間では第29週2例、第30週8例、第31週14例、第32週21例と増加が目立っており、報告都道府県数も増加している。栃木県では食中毒事例として報告されており、他の都道府県からも感染源・感染経路不明の散发例報告が増えていることから、0145 VT2に汚染された水や食品を介した広域感染の可能性も考えられる。そのため、0145 VT2感染例に対する、喫食歴および食材の遡り調査、ならびに菌の分子疫学的解析等の積極的な疫学調査が必要と思われる。また、保健所への届出時点で0血清群やVT型が不明の腸管出血性大腸菌感染症例の中に0145 VT2感染例が含まれている可能性もあるため、感染者からの分離菌における0血清群とVT型別検査は重要である。

本年は2001年以来10年ぶりに一週間の報告数が300例を超え（第31週306例）、第32週までの累積報告数も2001年に次いで2番目に多い。例年の状況から、発生のピーク時期を迎えていると考えられ、予防対策の徹底が必要である。食肉の十分な加熱処理などにより、食中毒の予防を徹底するとともに、手洗いの励行などにより、ヒトからヒトへの二次感染を予防することが重要である。特に、保育施設における集団発生が多くみられており、日ごろからの注意として、オムツ交換時の手洗い、園児に対する排便後・食事前の手洗い指導の徹底が重要である。また、簡易プールなどの衛生管理にも注意を払う必要がある。さらに、過去には動物とのふれあい体験での感染と推定される事例も報告されており、動物との接触後の十分な手洗いにも注意が必要である。

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(33週)	高知県(34週末累計) H23/1/3~H23/8/28
			中央東	高知市	中央西						
内科・小児科	インフルエンザ									59 ( 0.01)	12,335 ( 256.98)
小児科	咽頭結膜熱		5		2	2		9 ( 0.30)	13 ( 0.43)	1,163 ( 0.38)	227 ( 7.57)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		3	1	7	1	1	13 ( 0.43)	19 ( 0.63)	1,527 ( 0.50)	1,733 ( 57.77)
	感染性胃腸炎	4	8	15	2			29 ( 0.97)	34 ( 1.13)	6,863 ( 2.25)	6,311 ( 210.37)
	水痘	2	1	12	2	1		18 ( 0.60)	24 ( 0.80)	1,900 ( 0.62)	1,383 ( 46.10)
	手足口病	9	20	95	21	15	23	183 ( 6.10)	207 ( 6.90)	13,225 ( 4.33)	2,250 ( 75.00)
	伝染性紅斑			5	1		2	8 ( 0.27)	7 ( 0.23)	993 ( 0.33)	302 ( 10.07)
	突発性発疹		1	8	1		2	12 ( 0.40)	18 ( 0.60)	1,739 ( 0.57)	489 ( 16.30)
	百日咳				1			1 ( 0.03)		84 ( 0.03)	14 ( 0.47)
	ヘルパンギーナ		2	8	1	3	5	19 ( 0.63)	38 ( 1.27)	6,509 ( 2.13)	793 ( 26.43)
	流行性耳下腺炎			2	1	1		4 ( 0.13)	5 ( 0.17)	2,263 ( 0.74)	247 ( 8.23)
	RSウイルス感染症		1					1 ( 0.03)	1 ( 0.03)	857 ( 0.28)	559 ( 18.63)
眼科	急性出血性結膜炎									146 ( 0.22)	( 0.00)
	流行性角結膜炎								1 ( 0.33)	507 ( 0.76)	33 ( 11.00)
基幹	細菌性髄膜炎									10 ( 0.02)	3 ( 0.43)
	無菌性髄膜炎								2 ( 0.29)	48 ( 0.10)	15 ( 2.14)
	マイコプラズマ肺炎			2			3	5 ( 0.71)	4 ( 0.57)	339 ( 0.74)	77 ( 11.00)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									10 ( 0.02)	8 ( 1.14)
計 (小児科定点当たり人数)		15 ( 7.50)	41 ( 5.86)	148 ( 13.27)	39 ( 13.00)	23 ( 11.50)	36 ( 6.60)	302 ( 9.90)			
前週 (小児科定点当たり人数)		21 ( 10.50)	59 ( 8.43)	182 ( 16.00)	46 ( 15.33)	19 ( 9.50)	46 ( 9.00)		373 ( 12.20)	38,242	26,779 ( 733.91)

定点当たり

第34週

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(33週)
			中央東	高知市	中央西					
内科・小児科	インフルエンザ									0.01
小児科	咽頭結膜熱		0.71		0.67	1.00		0.30	0.43	0.38
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.43	0.09	2.33	0.50	0.20	0.43	0.63	0.50
	感染性胃腸炎	2.00	1.14	1.36	0.67			0.97	1.13	2.25
	水痘	1.00	0.14	1.09	0.67	0.50		0.60	0.80	0.62
	手足口病	4.50	2.86	8.64	7.00	7.50	4.60	6.10	6.90	4.33
	伝染性紅斑			0.45	0.33		0.40	0.27	0.23	0.33
	突発性発疹		0.14	0.73	0.33		0.40	0.40	0.60	0.57
	百日咳				0.33			0.03		0.03
	ヘルパンギーナ		0.29	0.73	0.33	1.50	1.00	0.63	1.27	2.13
	流行性耳下腺炎			0.18	0.33	0.50		0.13	0.17	0.74
	RSウイルス感染症		0.14					0.03	0.03	0.28
眼科	急性出血性結膜炎									0.22
	流行性角結膜炎								0.33	0.76
基幹	細菌性髄膜炎									0.02
	無菌性髄膜炎								0.29	0.10
	マイコプラズマ肺炎			0.40			3.00	0.71	0.57	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									0.02
計 (小児科定点当たり人数)		7.50	5.86	13.27	13.00	11.50	6.60	9.90		
前週 (小児科定点当たり人数)		10.50	8.43	16.00	15.33	9.50	9.00		12.20	

## 2011年週報推移(定点当たり)

